

令和2(2020)年度 学校関係者評価

1 アンケート結果及び自己評価に対する評価委員からの意見

(1) 授業及び学習に関するアンケートについて

- ・令和2年度は、新型コロナ感染予防対策の優先順位の高さのために、様々なことが後回しにせざるをえない状況の中で、3年生を筆頭として生徒の意識が高いことは有意義である。
- ・新型コロナウイルス感染予防対策は先生も含め、一人一人の意識と行動が重要。感染予防は常に100%を目指して、自分事として高い危機感を持たせる。
- ・授業の理解度に個人差が出るのは当然だが、個人の正確な理解度を把握することが重要である。

(2) 生徒アンケートについて

- ・生徒アンケート分析の仕方が、SDGs理念の「誰一人取り残さない (leave no one behind)」につながるものであり、学校としての基本姿勢それ自体に大変に感心している。また、経年比較で、毎日の授業にしっかりと取り組んでいる姿勢などをはじめとして、良くなっていることが、高く評価できる。ただし、令和2年度の伸びが顕著な理由が不明瞭であるので、もう少し分析・考察を深めてもらえることを期待する。
- ・各質問でC・D評価になった生徒へのきめ細やかな対応をしていくとあるが、それが実際にできているかどうかを見極めること重要である。また、そういう生徒指導は担任任せではなく、組織的に対応できる仕組みも必要。
- ・授業への取り組み姿勢が確実に向上しているのは良いことなので継続してほしい。生徒の視点での先生方の対応が感じられ、双方向コミュニケーションが向上している。
- ・進路指導に関して高評価の比率が高いことは、先生方の真剣になった指導の現れだと思う。
- ・対外的な数字より、対内的な結果を大切にしてほしい。

(3) 保護者アンケートについて

- ・家庭学習については、「やらせる」という方向で形式的に学習時間を増やすという方向でなく、「自らやりたい」という方向で学習活動の質を充実させる方向に誘導することが望ましい。白楊高のカリキュラムならではの「実社会とのつながり」を実感させて、やる気を生徒から引き出していくのが良い。
- ・コロナの影響で、保護者が来校する機会が減ったとあるが、コロナ禍であっても保護者に校内の様子を報告する手段はいくつもあるかと思う。例えば、パスワードによる映像配信、オンライン授業参観など可能である。ぜひ、今後のために春休みなどを使い研究してみてもどうか。
- ・好意的なアンケート回答が多いのは、素直に学校側の努力だと評価したい。しかしながら保護者の方々の様々な異論が、学校の今後を考える際には参考となる。

(4) 教員アンケートについて

- ・問題が見えてくると、モグラ叩きのように躍起になって一つ一つ解決したいと願ってしまうものだが、「すぐ解決できる問題」と「時間をかけて解決すべき問題」とは区別すべきである。逆に言えば「すぐに解決すべき問題」を炙り出して、それらについての議論を大局的見地から進めること自体に、そのヒントがある。
- ・生徒指導への温度差解消は重要。教員の中で委員会などをつくり、意識改革に取り組むことの必要性を感じる。
- ・生徒、保護者アンケートの結果が良いので、もっと自信を持って取り組んで良いと思う。

(5) 自己評価について

- ・自己評価の仕方それ自体を改めて自己評価してみるとよい。「コロナ禍が言い訳になる事柄」と「ならない事柄」との区別、「コロナ禍があったがゆえに変化が生じた事柄」と「コロナ禍があろうがなかろうが変わっていた事柄」との区別という視点で考えると、色々見えてくるものがあると思う。
- ・正直、オールBという評価ほど難しいものはないと考える。すべて程々にできているということで、特に優秀な点、アピールする点に欠ける、特徴のない結果となる。Cがあってもよいので、必ず一つはAが入るような学校経営を希望する。

2 学校関係者評価に基づく今後の改善方策等

- ・今年度からWGを立ち上げ授業評価に関する研究を始めているが、授業の理解度の把握や授業の在り方を見直すためにも更なる研究を進めていく。
- ・生徒指導に関することについて、生徒へのアプローチの仕方だけではなく、教員間で共通の認識が持てるように組織的な改善を図っていく。
- ・授業における実践的・体験的な学習活動の充実が、自発的な家庭学習への意識向上につながるよう教員の意識改革を図っていく。
- ・保護者に校内の様子を報告できるように映像配信、オンライン授業参観等の実施に向けて検討する。
- ・評価の分析の視点を整理し直す。